

整理番号	32-4	事務事業名	水道開閉栓業務委託事業	作成部署	水道部業務課	電話	内線874	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	赤沼正三	課長職名	加藤正人	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	平成4年	根拠法令等	なし					
〃終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	住宅の新築や人口異動等により増加する開閉栓業務について、職員が直接その業務にあっていたが、民間委託により経費を削減しかつ業務の迅速性と確実性を高め、より一層の住民サービスの向上を図る。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連 (総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち	(第5章)
	節	上水道	(第5節)
	施策	水の安定供給	(第1施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	水道使用開始及び中止申込み者	
	意図 (何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか)	住宅の新築や人口異動等により、増加する水道の開閉栓業務について、職員が直接その業務にあっていたが、経費の削減を図りかつ業務の迅速性と確実性を高めるため、また業務時間以外の土・日曜、祝日においても対応できる体制を整え、住民サービスの一層の向上を図る。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容)	16年度まで	(過去3カ年の開閉栓業務受付件数) H14年度～3,059件 H15年度～3,135件 H16年度～3,351件
		17年度	H17年度見込み～3,500件

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

	区 分	15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	5,518	5,340	5,359	5,359
	合 計	5,518	5,340	5,359	5,359
人件費 (概算)	人数(年間)	0.03	0.03	0.03	0.03
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	270	270	270	270
総事業費 +		5,788	5,610	5,629	5,629

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	開閉栓業務受付件数	3,135	3,351	3,500	3,500
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	開閉栓業務実施件数	3,135	3,351	3,500	3,500
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	実施割合 (受付件数÷実施件数)	1	1	1	1
	実施コスト (総事業費÷受付及び実施件数)	1,847円/件	1,675円/件	1,609円/件	1,609円/件

整理番号 32-4

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	水道開閉栓業務は、平日はシルバー人材センターへ、土・日曜・祝日は(株)道央環境センターへと既に民間委託により実施しているが、現在、地方自治体が独占的に運営している水道事業を、民間企業に全面委託できるようにするという方針を国が決めたことから、料金設定・徴収から水質管理、メーターの検針など、水道事業のすべての業務が、今後ますます民間委託へと移行していくことが予想される。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	水道開閉栓業務の実施主体は行政でしかありえず、市民・企業等での実施可能性はないことから、適切とした。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	設定対象は、水道使用開始及び中止者であり、その申込みの依頼者への対応であることから、判定は適切とした。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	経費や住民サービスの向上を考え、職員が直接対応していくのか、委託業務としていくのかの選択であり、委託業務で対応していくことが適切であると考えられる。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	当該項目には、該当しない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	従来、職員が直接対応していた開閉栓業務を、民間委託したことにより、経費の削減はもちろんのこと、土・日曜、祝日においても対応が可能になり、住民サービスの向上が図られたことから、概ね成果が上がっていると判断した。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	委託先の一本化により、さらに経費の削減の可能性を検討する余地はあるものの、これまで業務はほぼ確実に、滞りなく達成されていることから、概ね効果的と判断した。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	現在、委託業務内容は、開閉栓業務以外に、量水器、隔測メーターの検針及び水道料金等に関する説明等としているが、今後は既存の業務内容に、職員が毎月対応している漏水等の異常水量に対する現地調査業務等を新規に加えるなど委託業務範囲を拡大するとともに、業務の合理化が図られるよう見直ししながら継続していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり